

- おもな内容：◇学校週5日制の対応について
◇加盟館園紹介 宇宙博物館 東武博物館
◇全科協北から南から

学校週5日制の対応について

小学校、中学校、高等学校等において、平成4年度の2学期から毎月の第2土曜日を休業日とする学校週5日制が実施された。子どもたちが主体的に行動できる場として、博物館でも様々な取り組みがはじまった。

今回、全科協加盟館園のうち学校週5日制の実施にあたって特別に対応をとった館園をピックアップし、その取り組みを紹介する。

質問は9月12日(土)の対応についてのみ伺い、質問事項は、次のとおりである。

- ①実施措置の名称
- ②①の内容(対象、料金等)
- ③事業の変更点(回数、時間数等)
- ④結果、反応等
- ⑤問題点、今後の対応等



国立科学博物館附属自然教育園で行った子供野外観察会(上、下)



国立科学博物館

- ①スタディールームでの観察指導(本館)
- ②教育普及官、教育ボランティアが顕微鏡等を利用した実物観察や押し葉カードづくりなどを指導。対象：小・中・高校生。材料費実費徴収。
- ③時間延長 13:00~15:00 → 10:00~12:00、13:00~15:00
- ④参加人数 小・中・高校生242名、大人116名、合計358名
- ⑤⑦指導体制の充実。特に教育ボランティアの確保と指導内容方法の充実が必要。④押し葉カードづくりに必要な押し葉の準備。

- ①ミュージアムアドベンチャー(本館)

- ②児童・生徒が教育ボランティア作成のワークシートによって展示物の観察学習を行い、その結果について指導を受ける。無料。
- ③8月に実施した特別企画「夏休み・サイエンススクエア」で行い、好評につき実施した。
- ④参加人数は小・中学生206名。面白かった、深く見学する態度が身についた等の反応があった。
- ⑤今回実施したのは3種類のテーマによるワークシートであるが、質量の充実を図っていきたい。

- ①特別展の小・中・高校生用解説書の無料配布(本館)
- ②現在開催中の特別展「日中国交正常化20周年記念展 楼蘭王国と悠久の美女」の小・中・高校生向けの写真入り解説書(4Pカラー版)の無料配布を行った。
- ③学校週5日制発足を記念して今回初めて実施。
- ④10,000部を印刷し、配布した。
- ⑤大人からの希望もあった。

- ①小・中・高校生の無料入園(筑波実験植物園、附属自然教育園)
- ②③入口及び券売所で小・中・高校生は本日無料の掲示を行い、今回初めて無料入園を実施した。
- ④無料入園者数 筑波実験植物園 79名、附属自然教育園 97名
- ⑤次回以降も第2土曜日は無料とし、小・中・高校生の学習に供する。

- ①サイエンスシアターの上演の増加
- ②最新のメカニズムを用いて立体的に構成した自然史ジオラマを上演。対象：特になし。無料。当日、4回上演する旨、入口に掲示した。
- ③1日3回→1日4回
- ④入場者数 小・中・高校生172名、大人82名、合計254名
- ⑤入場希望者が多く、1回当りの定員50名を超えて入場させたため、多少見にくくなったように思われる。次回からも同様に実施する。

- ①植物園観察会(筑波実験植物園)
- ②園の研究官の指導のもと園内の植物あるいは植生の変化を観察し、理解を図った。小・中・高校生50人募集。券売所で掲示板による告知をするとともに、観察会開始前に園内放送を行い周

知徹底を図った。無料。

- ③今回初めて実施した。
- ④参加者 小・中・高校生57人
- ⑤次回からも継続して実施する。

- ①講演会(筑波実験植物園)
- ②「土星の話」を理工学研究部研究官が講演。小・中・高校生40人募集。無料。
- ③第2・第4土曜日に実施している夜の天体観望公開に先立ち行った。今回初めて実施した。
- ④参加人数 22人
- ⑤次回以降については未定である。

- ①子供野外観察会(附属自然教育園)
- ②森林の働きを、土や水の面から取り上げて解説し、理解させることを目的とした。小・中・高校生を対象とした。
- ③今回初めて実施した。
- ④参加人数 48人

- ⑤8月に実施した特別企画「夏休み・サイエンススクエア」で好評であった「飛ぶ種のふしぎ」についても実施し、風洞実験や実際の種で飛ぶしくみについて観察し、理解を図った。31名の参加があった。

なお、次回は「飛ぶ種のふしぎ」と「ドングリのブローチづくり」の実施を予定している。

岐阜県博物館

- ①たのしい土曜教室「博物館を探検しよう」
- ②対象：小・中・高校生及びその親(当日は小学生が最も多く、中学生は少なく、高校生はなかった。幼稚園児らしい子や、児童の親も参加した。)
- 料金：入館料のみ(小・中学生50円、高校生・大学生100円、一般210円)
- 内容：館内探検用のクイズプリントを渡す。そのプリントを解きながら、展示資料を探したり観察したりする。(但し、低学年用と高学年用にプリントを分けてある。)その後、解答を行い正解者(最終的には全員)には、自然に関する冊子を贈呈した。午前と午後の2回行った。
- ③今回初めて実施。
- ④参加者約110人。子供達は大変熱心に生き生きと活動し、喜んで次のレベルの問題に挑戦していた。

- ⑤11月から小・中学生は常設展の入館料は無料にする予定。今後はクイズプリントの内容をもっと充実させたい。

山口県立山口博物館

- ①ミュージアム・ラボ（最新科学技術実験・実演コーナー）
- ②③県立山口博物館においては、従来から学芸員の指導のもと、ミュージアム・ラボを実施しているが、学校5日制に合わせ、内容をやさしくして子供向けにしぼった。子供たちは食品や薬品製造に使われる「真空凍結乾燥機」（フリーズドライ）やLSI（大規模集積回路）、電子顕微鏡などの装置を使った実験や実演に見入っていた。入館料は必要（常設展観覧料を含む）。
- ④参加者 小・中・高校生及び大人 101人
- ⑤次回以降の第2土曜日にも継続実施する。

鹿児島県立博物館

当館では、毎月第2土曜日に「サタデー自然探検団」を企画し、学校及び報道機関を通じて参加者の募集（定員144名）を行っている。

9月12日は下記の3教室を開講した。なお、11月からは「天文探検教室」も開講する。

- ①自然探検教室「文化ゾーンで雑草の生活を探ろう」（かごしま文化ゾーン一帯）
- ②歩道及び建物周辺の草本類の種類と分布、生活形態などの観察後、博物館で整理・まとめを行った。小・中・高校生と保護者を対象。無料。
- ③学校週5日制発足に対応して初めて実施。
- ④小学生と保護者15名が参加し、自主的な観察の中から、見慣れているはずの草本類の様子に新しい発見をして喜んでいた。
- ⑤野外観察の場合、天候と季節に影響されるので、ビデオ、常設展、企画展の活用等を工夫する。図書（特に図鑑類）及び資料の充実。高校生の参加の推進。
- ①自然探検教室「秋の虫、バッタ・コオロギを探そう」（城山一帯）
- ②博物館に近い城山の頂上付近の草原で、昆虫の観察や採集を行い、午後、博物館で図鑑や標本で同定、観察のまとめを行った。小・中・高校生と保護者を対象。無料。

- ③学校週5日制発足に対応して初めて実施。

④小・中学生と保護者56名が参加し、天候にも恵まれ、草原の中での昆虫の種類と生活の様子、バッタ・コオロギの仲間の区別を学習するなど非常に熱心に取り組んでいた。

- ⑤上述

①ミクロの世界探検教室「植物の毛の不思議」（博物館周辺及び実験室）

②毛を持つ植物を調べ、葉などを博物館に持ち帰り顕微鏡で観察スケッチを行った。小・中・高校生と保護者を対象。無料。

- ③学校週5日制発足に対応して初めて実施。

④小・中学生と保護者36名が参加し、初めての顕微鏡観察をする小学生も保護者と楽しみながら観察スケッチをし、好評であった。

- ⑤上述

滝川市美術自然史館

①のびのび土曜日ナイスデー「わかるかなティラノサウルス」

②午前9時から12時までに入館した市内の小・中学生を対象とし、入館料は無料でワークシートを配布、ティラノサウルスに関する7項目の質問を設定、回答者に参加証明書を交付した。

③参加者は小学生11名のみ、中学生は全校が学校祭のため不参加。

④社会教育施設では、それぞれに一応の対応策を講じたが、学校（中学校）の対応が事前に承知されていたため、積極的な特別事業の取り組みはしていなかった。今後の対応であるが、北海道のように積雪地域にあっては夏期と冬期では、自ずと事業内容が異なり、同一事業の継続は不可能であり、施設に従事する職員の負担増となり、延いては小・中学生に拘束のたがが従前より多くなり、逆に迷惑顔される恐れがある。それよりも当面は静観し何処かに行けば何かしている位の範囲で長続きさせるべきと判断している。そのなかで対象児童生徒が何を求め何に関心を示すかを十分に掌握してからの対応がベターであり、早急の対応は児童生徒の生活リズムや家庭内でのリズムにも大きな変化をもたらす危険性が多く、学校5日制の趣旨が崩壊する事が危惧されるためである。

盛岡市子ども科学館

- ①・サイエンス・トライ
 - ・サイエンス・オリエンテーリング
 - ・親子無料開放（幼児から高校生まで）
- ②サイエンス・トライでは、カメラの仕組みを学び、簡単なカメラを製作し、持ち帰っていただいた。また、レオナルド・ダ・ビンチの考案したらせんポンプなどを使っての水くみ競争を行った。サイエンスオリエンテーションでは、展示室をオリエンテーリング方式に回り、展示物を操作しながら問題に答えるゲームを行った。
- ③学校5日制実施記念として今回初めて実施。
- ④普段の土曜日の約6倍にあたる2,901人の入館者があり、準備したゲームのカードがまに合わずあわてて増刷するほどであった。
- ⑤一部は今後も継続するが、人手がかかるので、内容の充実と合わせて、さらに検討したい。

郡山市児童文化会館

- ①学校週5日制実施に伴う休業土曜日の対応
- ②第2土曜日の休業の趣旨を踏まえ、子どもたちの自由な行動時間に広く活用されるよう館内常設科学展示品などについて学校を通し周知徹底を図り、館内で遊びながら科学する知識を学び、生涯学習、家庭学習の教育的配慮に努める。（入館料無料）
- ③プラネタリウムの放映時間を第2土曜日のみ、午前11時と午後3時に変更（現行1時30分と午後3時）放映することを広報紙などを通し周知を図り放映する。
- ④9月12日(土)の午前11時のプラネタリウムの開演には、座席180席のところ325名入場者がありその対応に苦慮する。（入場料無料）
- ⑤今年度は、人的、財的な関係から前回と同じ方法で対応、学校週5日制休業日も慣行化すれば混雑も低迷してくるものと推察する。

静岡市立児童会館

- ①だれでも自由に選んで活動できる教室開放
- ②小・中学校の児童生徒を対象に今回初めて無料で実施した。
 - 科学教室
 - 顕微鏡での観察
（池の水・お堀の水・玉ねぎ等を調べる。）

- 簡易モーターづくり
（簡単な材料を使ってモーターづくり）
 - 身のまわりの石調べ
（駿府公園内で見られる石の名前を調べる。）
- 美術教室
- 砂絵づくり
（厚紙にボンドをつけ、その上に色の砂をつけて作品づくり。）
 - しおりづくり
（ヒイラギなど、いろいろな葉の葉脈を使ってしおりづくり。）
 - ハガキづくり
（すみながし・版画・型おしなどの方法でハガキづくり。）
- ③午前10時より午後3時まで
 - ④科学教室（150名）、美術教室（350名）
 - 幼児から大人まで楽しそうに活動していた。
 - 完成した作品を喜んで持って帰った。
 - ⑤科学教室は一科目にしぼってやった方が子どもが安心して活動できるようである。今後は実施する内容をしぼって、自発的に行えるようにしたい。美術教室は自分でやるものを選択し、自発的に活動していた。年令に応じた対応を考えて実施する必要がある。今後も事業等事前に検討し実施していく。

浜松科学館

- ①実験室・創作室開放事業
- ②館指導員の指導のもと、実習室においては「やさしい電気の実験・電池（果物電池・食塩水電池）づくり・葉脈のしおりづくり」や、顕微鏡を使って「昆虫のからだ」や「花粉・シダの胞子のう」などを観察した。又創作室においては、紙筒芯を利用し「こま」づくりや「竹とんぼ」づくりを実施した。募集方法については、その対象を小・中学生とし、事前に市広報紙及び科学館だより等に掲載し、周知徹底を図った。無料（ただし、材料費実費徴収）。
- ③今回5回目
 - 本市では、すでに2年程前から毎月第2土曜日を「家族の日」として小・中学校が休校日となっていた関係上、本年5月9日(土)から学校5日制を先取りするかたちで本事業を実施している。

開放時間は、午前10時から午後4時までである。
(参加随時)

- ④参加者 小・中学生93名(実験室…43名 創作室…50名)。

開放結果は極めて良好であり、参加者総てが意欲的かつ熱心に自己のテーマに取り組んでいた。

- ⑤次回以降も継続実施。

名古屋市科学館

- ①小・中学生の入館料無料扱い及び科学館オリエンテーリングスペシャル

- ②小・中学生の入館料を無料とし、小・中学生を対象に館内展示品14か所のクイズに挑戦しながら楽しく見学していただいた。

- ③学校週5日制に合わせて初めて実施。

- ④当日の総入館者数9,100人(プラネタリウム1,797人、展示室7,303人)のうち、小・中学生は6,986人(77%)と多数の入館者があった。また、科学館オリエンテーリングスペシャルのクイズの解答者は2,654人と多く大変好評を得た。

- ①立体映画(10:00(団体用))を一般に上映した。また、プラネタリウム(9:45(団体用))も一般に投影した。

- ②③火曜日から土曜日まで立体映画は10:00の回、プラネタリウムは9:45の回は団体用として上映(投影)しているが、当日これを一般に対して行った。日曜日・祝日においては、既に実施済であるが、土曜日については初めて実施した。

- ④参加者: 立体映画1,392人(うち小・中学生805人)、プラネタリウム1,797人(うち小・中学生1,163人)

- ⑤今後、実施状況をみて検討する。

京都市青少年科学センター

- ①学校週5日制の実施に伴う“いきいきサタデー”
科学センター入場料等の無料化

- ②入場料及びプラネタリウム観覧料の無料化

(1)対象 京都市内に住所又は通学先を有する小学校・中学校及び高等学校並びに民族学校の児童・生徒

(2)入館手続 対象者が入場料等免除申請書に学

校名・氏名・住所を記入。その申請書と引き換えに無料入場券を配布。

- ③学校週5日制の発足にあたり、今回初めて実施。

- ④入場者3,481人(うち無料対象者2,512人)

プラネタリウム観覧者693人(うち無料対象者453人)。

- ⑤後記

- ①学校週5日制の実施に伴う“いきいきサタデー”
“わくわくサイエンス”

- ②③“わくわくサイエンス”(一般公開事業の充実)

(1)プラネタリウム放映の1回増設

(13時、15時半 → 11時、13時、15時半)

(2)科学映画の上映

(3)演示実験「液体チッ素による極低温の科学」の実施

- ④(1)プラネタリウム 693人

(2)科学映画 250人

(3)演示実験「液体チッ素による極低温の科学」50人

- ⑤(1)要した人員が10名に上った。(通常の土曜日出勤者以外に職員が出勤、切符発売窓口での整理・受付・電話の対応等に当たった。)

(2)大量のゴミ(あき缶、弁当箱等)に伴う処理

(3)駐車場の整理

(4)迷子、落とし物による混乱

(5)教育機関としての指導ができなかった。

(6)次回から市外の団体が多く来館するため、その対処をどうするか。



宇宙博物館 SPACE MUSEUM

〒805 北九州市八幡東区枝光本町8-1

TEL 093-672-3100 (代表)

FAX 093-672-3030

当館は、91年6月に宇宙をテーマにしたテーマパーク「スペースワールド」の一角に開館しました。

スペースワールドには、未来の宇宙冒険旅行を楽しむパビリオンや米国スペースキャンプ財団とのライセンス契約により運営される宇宙飛行士訓練体験施設「スペースキャンプ」等があります。

しかし、このような施設に加えて、実際に宇宙開発で使用された“実物”が必要であると考え、世界の宇宙開発で実際に使用された機器等を展示し、人類の宇宙開発史を分かりやすく紹介したこの「宇宙博物館」を建設しました。

館内は、宇宙空間をイメージしており、月や地球が浮かぶ空間に、宇宙船やロケットが飛び、宇宙旅行をしているような気分させられます。

◎ 施設等の概要

・延床面積 約600㎡ (1階展示室 約280㎡ 1階展示室は吹き抜け、2階展示室 約170㎡ 共有スペース 約150㎡)

入館料 400円 スペースワールドのパスポート券をお持ちの方は無料、スペースワールド園内からの入館に加え、園外からの入館もできます。

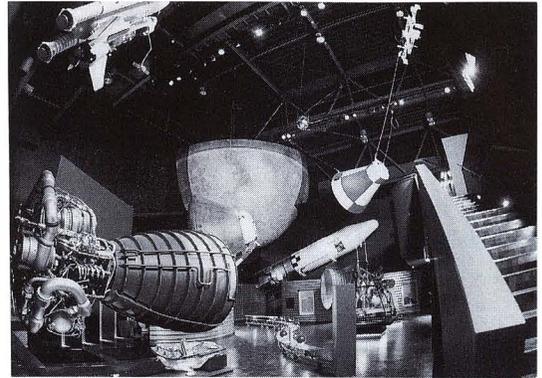
・総展示数 約50点

◎ 展示の概要

1階展示室のテーマは、アメリカを中心とした「世界の宇宙開発史」で、2階展示室のテーマは「未来の宇宙開発」、「日本の宇宙開発」です。

1階展示室には、米国スミソニアン航空宇宙博物館の協力により、アメリカの宇宙開発で実際に使用されたアポロ宇宙服、ジェミニ宇宙服、アジェナロケット、サターンVロケットのJ-2エンジン等を展示しています。また、宇宙での生活を知ってもらうために、アポロ時代から現在までの宇宙食も展示されています。そして、何よりも目をひくのは、館内中央に展示されているアポロカプセル(司令船)で、これはアポロ22号として月に行くはずだった幻の宇宙船です。

2階展示室には、世界的に有名なインダストリアル・デザイナー、ジョン・フラサニートが描いた宇宙開発の未来画やスペースプレーンの模型等が展示されています。また、日本の宇宙開発では、ペンシルロケットの実物、日本の人工衛星、ロケッ



トの模型等が展示されています。

◎ ミュージアムシアター

2階展示室には「ミュージアムシアター」を設置し、地球環境やアポロ・ソユーズ計画をテーマにしたドキュメンタリー映画を随時上映しています。また、気象衛星「ひまわり」からの映像により現在の気象状況を知ることができます。

100インチプロジェクター使用 客席数約20人分

◎ 科学普及事業

科学普及事業は、隣接する宇宙飛行士訓練体験施設「スペースキャンプ」を中心にして行っています。スペースキャンプでは、NASAにおいて実際の宇宙飛行士の養成に使用されたものと同様の機器によるトレーニング、宇宙科学に関するレクチャー、本物そっくりの機器を使用してスペースシャトルの発射から帰還までを再現するシャトルミッション、パソコン学習、モデルロケットの製作ならびに打ち上げ、宇宙博物館見学、天体観測などのカリキュラムが用意されています。キャンパーは、インストラクターの指導のもと、合宿生活によりこれらを学習します。個人で参加するキャンパー以外に、修学旅行等で利用する学校団体や、社員研修に利用する企業も増えています。

また、宇宙飛行士や、宇宙開発で実際に活躍している科学者やエンジニアを招いて講演会等も行っています。そして、宇宙について更に勉強を続けたいという青少年を対象とした会員組織「スペースキャンプクラブ」もあり、最新の宇宙に関するニュースを載せた会報を発行するほか、各種イベントを実施しています。

東武博物館



東武博物館

〒131 墨田区東向島4-28-16

TEL 03-3614-8811

FAX 03-3614-8814

当館は、東武鉄道創立90周年記念事業の一環として開館しました。90余年にわたって鉄道が果たしてきた意義をふりかえり、また今日の新しい東武鉄道の姿を紹介することにより、21世紀の未来に向けてのグローバルな視野を持つ交通と文化を展望できるよう配慮しました。

1. 施設等の概要

敷地面積4,688㎡博物館3,592.8㎡ホール1,095.2㎡
 建築面積2,927.9㎡博物館2,255.7㎡ホール672.2㎡
 延床面積3,955.2㎡博物館2,945.5㎡ホール1,009.7㎡
 開館時間 10:00~16:00

休 館 月曜日(ただし、月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)、12/23~1/3

入 館 料 大人(高校生以上) 200円(100円)
 子供(幼稚園~中学生) 100(50円)

() は25名以上の団体料金

友 の 会 (年会費)個人 6,000円 ファミリー 3,000円

法人(無記名会員証10枚発行) 100,000円

2. 展示物概要

〈東武の幕開けコーナー〉

5号機関車：開業当時英国から輸入したテンダー形機関車。腕木式信号機も併せて展示。

〈東武鉄道のあゆみ〉

デハ1形5号電車：大正13年東武鉄道の電化区間を初めて走った木造電車。

〈都市の発展と路線のひろがり〉明治時代から現在に至るまでの東武鉄道と沿線地域社会との関わりをスライドで映写。

〈車両のうつりかわり〉蒸気機関車、電車、電気機関車、最新通勤電車、特急までを映像・写真パネル・模型などで展示。

〈安全・快適にはこぶ〉

電車のシミュレーション：大小シミュレーション3台を設置、実物の運転席に座り、映像を見ながら本物と同じような運転体験ができます。

〈安全に走るシステム〉4台の運転席から実物と同じ操作で、それぞれ1編成の模型電車を運転して、安全走行を学ぶシステム・ジオラマです。

〈電気のしくみ〉無人の変電所の遠隔集中制御、ATS等のしくみをわかりやすく展示。

〈ポイントとシグナル〉路線の分岐ポイント部分、



信号機の実物を作動できるようにして展示。

〈路線の立体化〉鉄道の高架化工事を模型で説明。

〈線路をまもる〉保線の仕事とマルチプルタイトンパー等を映像で紹介。

〈電車の走るしくみ〉電車の集電装置、台車の実物を展示し、実物装置で作動させます。

〈バスのシミュレーション〉バスの運転席に座り、実物大のハンドルを操作します。

〈関東平野にひろがる東武〉左右14m、奥行き7mの大パノラマは東武鉄道の広大な路線をイメージして作られました。この美しい景観の中で120台のミニチュアを運転。

〈時代を担った主役たち〉ED5015号電気機関車、日光軌道200型、キャブオーバーバスの実物を展示。

〈リアルタイムコーナー〉

走る電車の生中継：テレビカメラによる電車の走行映像を生中継します。

〈駅のしごと〉駅務室の一部を再現して、自動券売機、自動改札機、駅内の様子を観察できます。

〈活躍するバス〉路線、観光バスの活躍の映像を観光バスのシートに座って見るすることができます。

〈ウォッチングプロムナード〉博物館2階の渡り廊下が東向島駅のホーム下になっており、ここから実物車両の台車部分やロングレールの伸縮継ぎ目が観察できます。

〈保存物展示コーナー〉

東武鉄道の歴史を伝える記念の品々を紹介。

3. 文化活動

展示のほか、ホールにおいて、交通文化フォーラム、向島文化サロンとして近代文学や歌舞伎の講座、夏休み子供向け映画会等を開催しております。

 全 科 協 北 から 南 から

加盟館の特別展・企画展

○鉄道錦絵の世界展 —鉄道開業120年記念—
10月6日(火)～平成5年3月7日(日)

交通博物館

○馬頭観音信仰のひろがり

10月24日(土)～平成5年11月23日(月)

根岸競馬記念公苑 馬の博物館

加盟館の出版物

研究報告・館報他

○海のはくぶつかん Vol.22 No. 5 1992

東海大学海洋科学博物館

○自然博物館だより Vol.10 No. 3 平成4年9月

和歌山県立自然博物館

○穂別町立博物館報 第9号 1992

○穂別町立博物館研究報告 第8号 1992

○釧路市立博物館紀要 第17輯 1992

○釧路市立博物館収蔵資料目録 (XII)

—歴史資料目録(2) 丹葉節郎氏資料— 1992

○富山市科学文化センター館報 第13号 1992

○コンピュータ教室 平成3年開催状況報告書

横浜こども科学館

○馬事文化財団 年報 第13号 1992

根岸競馬記念公苑 馬の博物館

定期刊行物

○あびこ鳥だより 第2号(通巻第6号) 1992

我孫子市鳥の博物館

○科学館ニュース No.34 1992

横浜こども科学館

○普及雑誌 とやまと自然 第15巻秋の号 1992

富山市科学文化センター

○蚕糸昆虫研ニュース No.16 1992

農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所

○科学館ニュース No.7 1992 仙台市科学館

○科学館 NEWS Vol.7 1992.9

大阪市立科学館

○岐阜県博物館だより Vol.17 No.3 1992

○SPACC No.9 1992

スペースワールド宇宙博物館

○天文科学館ニュース 194号、195号、 1992

明石市立天文科学館

○科学館ニュース No.33 1992

横浜こども科学館

○岐阜の博物館 No.98 1992 岐阜県博物館協会

○Toba Super Aquarium 第3号 1992

鳥羽水族館

○ミュージアム多摩 No.13 1992

東京都三多摩公立博物館協議会

○自然史博物館だより No.8 1992

倉敷市立自然史博物館

○釧路市立博物館報 No.333～336 1992

○中央博物館だより No.14、15 1992

千葉県立中央博物館

特別展図録・解説書

○まつり・獅子と龍 鳥取県立博物館

○楼蘭王国と悠久の美女 国立科学博物館

○ブナ林の自然誌 千葉県立中央博物館

ポスター

○開館一周年記念特別展「狭山の指定文化財」

狭山市立博物館

○地球は丸かった

大阪市立科学館プラネタリウム

プラネタリウム番組

○かぐや姫は…宇宙人!? (11月のテーマ)

福島市児童文化センター

○星空にうたえば(投影中 ～12月6日)

和歌山市立こども科学館

○20世紀の天才—アインシュタインの素顔—

(投影中～11月29日) サンシャインプラネタリウム

○地球は丸かった(9～11月のテーマ)

大阪市立科学館

【人事異動】

国立科学博物館(全国科学博物館協議会理事長館)

新館長 川村 恒明 前館長 諸澤 正道

これに伴い、全科協理事長には、新たに川村恒明
国立科学博物館長が就任しました。